



# 六郷中だより

六郷中学校だより 第11号 <六中HP>

令和 5年 3月24日

発行・文責：校長 深澤裕治



## 次に目ざしたいことを考える

桜の咲く季節となりました。普段、桜の花を間近に見る機会も少なくなりましたが、幸い、校門付近で、毎朝生徒の登校指導をしていましたので、昨年より数日早い3月22日に、山田川の土手沿いの桜の枝に、咲き始めた数輪の花を見つけることができました。2日後の3月24日。おかげさまで、六郷中学校は今年度の修了式を迎え、校長の話として、次の言葉を生徒たちに伝えました。

保護者の皆様、地域の皆様、一年間、六郷中学校へのご理解とご協力をありがとうございました。

今日、皆さんにとって、一年間の学校生活で最も大きな節目となる修了式の日を迎えました。そして、2週間後には新年度の始業式を迎え、新しい一年がスタートします。もちろん一年の終わりとなる修了式と、一年のスタートとなる始業式とでは意味合いも違いますので、簡単には比較はできませんが、今日の修了式をしっかりと意識してほしいと思います。今日の修了式、皆さんにとって一年間で最も大きな節目となる理由をお話しします。

2週間後の4月6日の始業式。皆さんは学年を一つ進級させ、教室も新しく変わり、皆さんの新年度がスタートします。そして、次の日、4月7日の入学式には、皆さんが上級生、最上級生となって、新しく入学生を迎えての六郷中学校がスタートします。さらに皆さんには、新しい学年の教科書が配られ、新しい学級のスタートとなる学級びらきも行われ、教科によっては新しい先生の指導が始まるかもしれません。2週間が経つと、始業式をはじめ、一年間のスタートにふさわしい取組が予定され、学校としても、皆さん一人ひとりとしても、よりよい一年間となるよう、立て続けに様々なスタートが切られていきます。言い換えれば、始業式からの数日間は、皆さんは用意された流れに沿いながらのスタートをしていきます。

一方、今日、令和4年度の修了式。来年度のスタートとなる始業式と比較はできないとお話ししました。つまり、よりよい一年間の締めくくりに向けて、学校としてのイベントや取組はほとんどありません。そこで、皆さんの一年間の学校生活の締めくくりは、誰かが用意したもので締めくくるのではなく、皆さん自身の一年間の頑張りや成長を自分自身で締めくくらなければなりません。

では、どうすればよいのでしょうか。校長先生は、今までのことを締めくくることは、「次に目ざしたいことを考えること」だと思っています。2週間後の新年度の一年間をどんな一年間にしていくのか。今日から始業式までの2週間をどんな2週間にしていくのかを考え、次に目ざしたいことを考えることが、今までの振り返りになり、次につながる締めくくりになるのではと思っています。次のことを考えることは、今までの皆さん自身の頑張りや努力を振り返ることとなり、さらには、今までの頑張りや努力の先にある、皆さん自身のこれから進むべき道筋や未来への設計図となります。今日の修了式を、皆さん自身の今までと未来とをつなぐ大きな節目にしてほしいと思います。皆さんのこれからの一年は皆さん自身の一年です。思いどおりの一年となるよう期待しています。頑張ってください。

## さらなる「ジェンダーの平等」に向けて！(No.3)

六郷中学校の教育活動や生徒たちの日常生活においての、さらなる「ジェンダーの平等」に向けて、全校生徒が同じ資料を用いて、「SDGsとジェンダー平等」についての学習会をクラスごとに行いました。学習した内容は次のとおりです。

- SDGsとは、世界中の国々が力を合わせて2030年までに達成しようとした17の目標のこと「持続可能な開発目標」として、今も未来も人々が暮らし続けられるようにするための目標
- 17の目標の一つに「ジェンダー平等」が掲げられ、すべての女性と男性が対等な社会を作ること
- 世界各国(146ヶ国)のジェンダー平等の進み具合を比べると、日本は116位 …「世界経済フォーラム発表」
- 山梨県民の意識調査アンケート …山梨県「男女共同参画に関するアンケート」

Q…男女の地位の平等感？ A… 男女平等 学校全体58.9% 社会全体9.3%

性別による差別を無くし、すべての女性と男性が対等に、権利・機会・責任を分かち合える社会を作ること、女性も男性も自分のことを自分で決めながら、生きる力をつけられるようにすることが「ジェンダーの平等」であると学習しました。